

将来に向けて戦略的な交流を展開することで、国際的な存在感を高め、県民の利益向上を目指す静岡県の観光・通商・外交。今回は、静岡茶の輸出拡大に向けた取り組みを紹介する。

## 輸出拡大の好機をとらえ「選ばれる静岡茶」へ

### 海外需要の風に乗る

国内における緑茶の消費量や購入量が減少を続ける一方で、日本茶の輸出は増大している。平成17年から29年にかけて、輸出量は約4倍、輸出金額は約6.5倍に増えている。背景には、欧米を中心とした健康志向や和食への関心の高まりがあり、抹茶の需要増と相まって、日本茶の輸出を後押ししている。

共有から海外見本市への出展まで、静岡茶の輸出拡大に向けた取り組みを茶業界全体で総合的かつ実践的に展開している。

### 重点地域は米国とEU

静岡茶の輸出拡大にあたっては、日本からの緑茶輸出の約40%を占める米国と、他地域に比べて販売単価の高いEUを重点地域として設定。ロサンゼルスとロンドンにサポートデスクを設置し、市場調査や情報提供、海外見本市での商談支援、商品パッケージやカタログ内容等への助言を行っている。海外見本

市に関しては、茶専門の国際見本市「World Tea Expo」(米・ラスベガス)、世界最大級の国際総合食品見本市「ANUGA2017」(独・ケルン)、米国東海岸最大級の総合食品見本市「Winter Fancy Food Show 2018」(米・サンフランシスコ)等に静岡茶ブースを出展し、静岡茶の魅力アピールしてきた。米国やEUにおける日本茶のイメージは、健康食品に近いと言われる。そのため、茶の機能性を効果的に訴えることが商機の拡大につながるが、本県

※：県と日本貿易振興機構(JETRO)等の関連団体、流通販売業者、茶生産者、市町・農協等で構成される。(会員約300社・団体)



欧米の見本市に静岡県ブースを出展し、海外での静岡茶の販路拡大を支援。



静岡茶市場で熱心に日本茶の鑑定方法を学ぶ海外茶業関係者。



招聘事業では、県内の茶生産現場を実際に訪問し、茶畑から商品までの全工程を学ぶ機会を提供。

は同時に、静岡茶が持つ歴史や文化を丁寧に伝えるなど、茶産地の魅力発信にも努めている。

### 海外の茶業関係者を招聘

茶産地としての魅力を伝える努力は、海外の茶業関係者を本県へ招聘する形でも行われている。平成28年からは米国やEUなどから招いた関係者を対象に、静岡茶の概要説明、煎茶の淹れ方講習や荒茶の審査方法の解説、茶園や茶工場の見学等を実施している。参加者からは「生産者の熱意を感じた。自国に戻って広めたい」(米国の茶教育活動従事者)、「静岡県の美しい茶園に感動した」(米国の茶バイヤー)、「静岡茶の品質だけでなく、文化についても学ぶことができた」(英国の茶業者)などのコメントが相次ぎ、評価は極めて高い。

また、県内の茶業関係者を対象に海外販路開拓に関するセミナーも開催している。その内容

は、米国・EUを中心とした海外の緑茶市場や輸出用静岡茶の生産技術に関する研修会、輸出事業者を対象とした個別相談会など、多岐にわたる。

### 選ばれる静岡茶へ

静岡茶の輸出拡大は、国内外の他産地との競合という側面も持つ。本県の強みは、産地の自然環境に多様性があり、生産される茶にも多彩なバリエーションがあることだ。それぞれの産地に古い歴史があり、その中で培われてきた豊かな文化も根付いている。そうした静岡のストーリー性や茶の品質、機能性をアピールするとともに、海外で人気のある抹茶や有機栽培茶の生産にも力を入れていくことで、生産者、茶商、海外バイヤーなどのマッチングを図り、B to Bのビジネスモデルを築いていく

ことが、本県の戦略だ。海外の健康志向に頼るだけでなく、歴史や文化も含めて「選ばれる静岡

茶」への展開に期待がかかる。

平成30年度は、これまで実施してきた招聘事業を拡大、発展させていくとともに、米国・EUに向き現地の茶業関係者に直接静岡茶の魅力を伝える事業を新たに行う予定だ。加えて、この3月に開館した「ふじのくに茶の都ミュージアム」を活用し、県内・国外双方で静岡茶の魅力発信にも一層力を入れていく。静岡茶の輸出拡大に向けた取り組みは、新たな局面を迎えつつある。



県内の茶業関係者を対象に海外販路開拓に関するセミナーを開催。